

1. めざす学校像

「学び、社会に出て人の役に立ちたい」という金蘭会を建学した方々の志が、本校の教育の原点である。この志と校名の「金蘭」の二文字に込められた、力強い、高貴な精神から、「自ら学び、成長し、社会に貢献する、力強く逞しい女性」を育成する学校をめざす。

- 1 確かな学力を得るために、学習活動を重視し、自己実現「なりたい自分」に向かうことのできる態度の育成
- 2 豊かな人間性と社会性を兼ね備え、個性や能力を生かす自立した女性の育成
- 3 自己も他者も認め、社会に貢献できる国際感覚豊かな女性の育成

2. 中期的目標

- 1 確かな学力の育成（教育の質の向上）
  - (1)学習指導要領、シラバスに沿った授業の充実
 

生徒の授業アンケートや保護者の学校評価アンケートの結果を十分に活用し、授業を充実させる。  
※生徒の授業アンケートにおいて、全ての授業で授業満足度を 32 年度に 90%以上にする。
  - (2)一人ひとりの状況に応じた学習指導
 

中学での習熟度別クラス編成の見直し。高校でのコース別個別指導、及びⅡ類での英語・数学の習熟度別授業の実施。  
※中学の発展クラス、標準クラスのクラス編成を見直し、もう一度授業内容を構築し、全ての生徒の実力(模試偏差値)が 3 年間で向上するよう、到達目標を設定し、対策を策定する。高等学校も各コースに応じたカリキュラムの検討と新学習指導要領への対応準備を行う。
  - (3)生徒が興味関心を持ち、自主的に取り組める学習
 

ICT の活用やアクティブラーニングを意識した授業、中学のクリエイティブ、高校での教養講座など、授業内容や指導方法の工夫改善を行う。  
※保護者アンケートで、生徒の興味関心を深め、学習意欲を高める取り組みをしているとの肯定回答を 32 年度には 90%に向上させる。
- 2 的確な進路指導とキャリア教育
  - (1)国公立・難関私立大学への合格者増と千里金蘭大学への入学者増
 

きめ細かな指導を行い、国公立・関関同立への合格者を増やすとともに、生徒の希望する進路の実現を図る。  
※国公立・関関同立に合計 30 名以上合格(32 年度)を目指す。千里金蘭大学への入学者は 20%以上(32 年度)になるよう高大連携を図る。
  - (2)一人ひとりにあったキャリア教育を推進
 

進路選択の決定に当たり、生徒の希望や適性を見極め、保護者とも連携して指導する。  
※保護者アンケートで、連携した指導や具体的指導がされているとの肯定回答を 32 年度に 90%以上に向上させる。
- 3 「自ら学び、成長し、社会に貢献する、力強く逞しい女性」を育てる学校生活（生徒指導等）
  - (1)学校行事やボランティア活動、部活動を通じた社会性、人間性、及びコミュニケーション能力の育成
 

多くの学校行事や活発なクラブ活動を通して、自己肯定感、協働性、規範意識を保護者と連携しながら身に付けさせる。  
※保護者アンケートでの肯定意見を 32 年度には 90%にする。
  - (2)教育相談の充実
 

生徒保護者に対する細やかな相談体制を構築し、情報の共有や環境整備を行う。また人権教育に関しても年間指導計画に沿って指導する。  
※保護者アンケートでの肯定意見を 32 年度に 90%以上に向上させる。
- 4 研修等による教員の授業力向上(教員力アップ)
  - (1)効果的な教員研修や授業研究の実施
 

効果的な授業研究や校内研修を計画実施し、教員間での意見情報交換を活発化すると共に、ICT 教育やアクティブラーニングの研修も計画的に実施し、教員力の向上を図る。  
※自己評価アンケートで 32 年度には 80%にする。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析(平成 31 年 2 月実施)	学校関係者評価委員会
<p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力の伸びる学校」を合言葉に学習活動を重視し、進路の保障へとつなげることを目指しているが、学習指導に関しての教員の自己評価は肯定意見 69%で不十分。生徒の自己評価アンケートで 84%となっている。</li> <li>・ICT の活用に関し、31 年度で iPad 全学年導入完成となり、環境整備も推進し、自己評価で 77%(29 年度 66%)と向上した。</li> <li>・教員のための授業参観を実施したが、肯定意見が 69%で不十分。</li> </ul> <p><b>【教員研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己研鑽のための教員研修や勉強会が十分に実施できず、肯定意見が 42%。教員の希望や現状に合わせた研修の機会を増やし、研修情報を伝え、充実させる必要あり。さらに研修の中身を検討し、受けやすい体制とそこで得たものの共有も必要。教員の授業力向上が生徒の学力向上につながる。</li> </ul> <p><b>【生徒指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導に関しては、近年問題行動や指導案件も減ってきている。これは、学校として統一した生徒への関わりが出来ているからで、教員の肯定意見も 91%と高い。(29 年度 81%)</li> <li>・保護者との連携がより深まるよう努める。保護者の肯定意見は 80%。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ 2 年志願者が減少している。学習指導の中身、その成果としての進路実績などが評価されていない。教員を含め学校全体の教育力を点検向上させる必要がある。</li> <li>・地域に開かれた学校として地域交流や施設開放を行っているが、自己評価で肯定意見が 56%と前年より低下。さらに推進したい。</li> </ul>	<p>○学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad の活用や英検・漢検の奨励など、目標を設定し、これまで以上に積極的に推進してほしい。</li> <li>・一部授業で生徒が集中していない時があると聞いている。全生徒が落ち着いて興味を持って積極的に学習できる授業環境と内容を工夫してほしい。</li> <li>・進路指導については、体系づけた指導と情報の提供を一層進めてほしい。教員間でも情報の共有を徹底し、生徒保護者に統一された最新の情報を説明する機会を増やしてほしい。生徒保護者と信頼関係のより深まる丁寧な面談を期待する。</li> </ul> <p>○教員研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力や指導力にかなりの格差があるように思われる。特に若手の教員には、研修研鑽を通してさらなるレベル向上に努めてほしい。そのため学校の体制も充実させてほしい。</li> </ul> <p>○生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼関係に基づいた指導をより進め、保護者との連携も深めてほしい。</li> <li>・中学高校での教養講座など、情操教育が行われ、評価できる。マナーや挨拶を徹底させると共に、生徒の自主性も伸ばしてほしい。</li> </ul> <p>○クラブ指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体でクラブ活動が盛んなことは、生徒に好影響をもたらし、大いに評価できるが、勉強学習との両立をさらに進めてほしい。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者どうしが学ぶ機会が増えて評価できる。保護者が学校へ足を運ぶ機会が増えるような工夫をお願いする。</li> </ul>

### 3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)学習指導要領、シラバスに沿った授業の充実 (2)一人ひとりの状況に応じた学習指導 (3)生徒が興味関心を持ち、自主的に取り組める参加型学習 (4)放課後や休日、家庭での学習環境の提供 (5)授業力アップのための相互授業参観の実施	ア 授業シラバスをHPで公開し、年間指導計画に沿った授業を展開する。 イ 授業アンケートを実施し、各先生からの授業点検報告書の提出を求め、授業改善を図る。 ウ 保護者向け授業参観(公開授業)を年に2回実施する。(6月10月)それ以外にも発表会を定期的に開催する。 エ 中学では、習熟度別クラス編成とし、高校でも科目内習熟度別授業を導入し、生徒各自の状況に応じた、適切な内容の授業を行う。 オ 模擬テストなどを活用して学力の把握と定着を図る。 カ 放課後の練成学習や勉強クラブ等で生徒の学習意欲を高める。 キ 教員のための授業参観期間を設け、相互点検を定期開催。 ク 学校経営推進費の補助を受け、高2Ⅱ類の英語教育の推進	ア 自己評価で進捗を確認。肯定意見は93% イ 生徒授業アンケートを7月に実施し、その結果より各自の改善報告書を校長に提出。生徒の授業満足度は84%(29年度80%) ウ 保護者評価アンケートでの肯定意見70%(29年度74%) エ 保護者評価アンケートでの肯定意見71%(29年度73%) オカ 生徒の学習に関する意欲は生徒授業アンケートで87%。(29年度は85%) キ 校内研修についての自己評価で42%(29年度50%) ク 対象コースの英検準2級以上の合格者生徒は65%。(目標70%)	ア シラバスを各自の教育計画と連動させ、生徒の学力向上と自主学習につなげていきたい。(○) イ 授業アンケートによる満足度は、前年度とほぼ同じ。ただ担当者によりばらつきがあり、保護者生徒からの厳しい評価もある。さらに授業改善の方策を講じたい。(○) ウ 授業参観に関しては、参加者が増加。授業品質の保障が大切。(△) エ 全ての保護者の期待には応えられていない。よりきめ細かい対応をしたい。(△) オカ 主体的に学習に取り組む姿勢や意欲を高めるための方策を次年度さらに工夫し、授業アンケートで90%以上としたい。(△) キ 研修の内容を精査し教員の意識と意欲の向上につなげたい。(△) ク 学校全体での一斉受検につながり、合格者も増え成果が出ているので次年度以降も継続したい。(○)
2 的確な進路指導とキャリア教育	(1)国公立・難関私立大学への合格併設大学への進学者増 (2)一人ひとりに合ったキャリア教育を推進 (3)キャリア意識を向上させるための、講演や情報提供 (4)生徒との個別面談を通し、情報提供と意識の向上	ア 国公立大学・関関同立への合格者を30名以上とするために補習の充実やオンライン教材等の活用を図る。 イ 大学や業者と連携しての説明会や講演会、ガイダンスを各学年で学期に一回程度開催する。 ウ 一学期、二学期には保護者生徒を対象とした個別懇談会を全学年実施し、現状分析と学習目標、志望校の設定を行う。 エ 勉強合宿を実施し、意識と意欲の向上を図り、進学補習での受験対策実施	ア 国公立0名関関同立7名併設千里金蘭大学進学者23名 イ 保護者評価アンケートで肯定意見79%(29年度81%) ウ 保護者評価アンケートで肯定意見73%(29年度78%) エ 夏期勉強合宿への参加者20名。(29年度25名)	ア 目標には届かず抜本的見直しが必要。(×) 高大連携を進めたことで併設大学への進学者が増えた。(△) イウ 進路実現には保護者の理解と協力も欠かせない。次年度は90%以上をめざしたい。(○) エ この勉強合宿や勉強クラブが十分にその効果を発揮しているとは言えず、次年度は内容を吟味し、さらに効果の上がる方策を講じたい。(△)
3 「自ら学び、成長し、社会に貢献する、力強く逞しい女性」を育てる学校生活	(1)学校行事やボランティア活動、部活動を通じた社会性、人間性の育成 (2)教育相談の充実 (3)人権意識を向上させ、いじめにつながる事態の早期発見と徹底対応を図る。 (4)安全健康教育・食育などの充実を図る	ア 安全安心な学校行事とするために、活動内容の点検と改善を図る。 イ 強化クラブを中心に全国レベルの出場クラブや個人を増やす。 ウ 中学では7つの習慣Jや、ユニクロ「服のチカラプロジェクト」での社会貢献活動。高校では、教養講座を通して、豊かな人間性を育てる。 エ SCを交えて教育相談関係のケース会議を実施し、外部の相談機関と積極的な連携を図る。 オ いじめ対策委員会の定期的開催と、保護者生徒へのいじめ発見のためのアンケートを年3回実施 カ 防犯教室、携帯に関する講演会、防災教室等を定期的実施	ア 学校行事に関する保護者評価アンケートでは肯定意見が84%(29年度87%) イ 高校新体操部が全日本選手権大会優勝、バレー部が春高2連覇。中学は新体操全国2位、バレー部全国3位。 ウ 私学としての特色ある教育活動として実施し、保護者からの評価も高い。保護者アンケートで肯定意見85%(29年度91%) エオ 生徒一人ひとりの悩みや相談に応じた指導をしているという保護者アンケートの肯定意見79%(29年度79%) カ 保護者アンケートの肯定意見86%(29年度88%)	ア 文化祭、体育祭などに参観する保護者が増えている。保護者評価アンケートは概ね好評。(○) イ 生徒のクラブ加入率を高め、全てのクラブの活動がさらに活発になるように努めたい。(○) ウ 次年度も継続し、内容の更なる向上を図りたい。(○) エオ 教育相談体制は整っているが、個別面談やアンケート等を有効に活用し、生徒保護者の状態把握に努めたい。また、相談窓口があることを機会あるごとに周知したい。(○) カ 外部機関と連携し、保護者にも参加を呼びかけて、講演会や研修会を実施したい。(○)
4 研修等による教員の授業力向上	(1)教員の年間教育計画作成 (2)効果的な教員研修や授業研究の実施	ア 学校運営計画に沿って各自の教育計画を立て、課題や目標を設定 イ 効果的な授業研究や校内研修を計画実施し、教員間での意見情報交換を活性化させる。 ウ 外部研修への参加と成果を共有できる体制を作る。 エ 初任者等の研修制度の充実を図る。	ア 自己評価で肯定意見93% イ 自己評価アンケートで肯定意見42%(29年度50%) ウ 自己評価アンケートで肯定意見26%(29年度26%) エ 自己評価アンケートで肯定意見30%(29年度30%)	ア 振り返りを行い次年度への反映が大切。(○) イウエ 効果的な教員研修や授業研究、新規取組のための体制づくりは不十分であった。そのため前年度に続いて自己評価も降下。(△) もう一度研修の内容を検討する必要がある。次年度以降も最重要課題として、授業研究や教員研修など教員力向上のための施策を実施し肯定意見70%以上をめざす。